| 教材教具および題材 | 学部 | 授業名（主たる教科領域） | 執筆者 |
|---|---|---|---|
| テッシュボックスの製作 | 高 | しごと<br>１・２・３年<br>（ＩＧ） | |

＜ねらい＞
柱（一辺９ｃｍ、１２ｃｍ）の角材を有効に使って作れる教材で、生徒のオリジナルの要素の部分が入っていかせるようなものを考えた。
＜内容（作成方法・使用方法・工夫点など）＞
　実習先で販売されていたテッシュボックスケースを参考にして、廃材としてもらう檜の柱から板を切り出して材料とした。底の板がちょうど１２ｃｍ幅の柱から作ることができた。取り出し口の板は一枚板にすると大きな板が必要になり用意できないこと、くり抜くよりも２枚の板に分ける方が加工しやすいという理由から２枚で作った。
生徒には取り出し口の２枚の板を好きな形にデザインし、電動糸のこ盤を使って切断して製作させた。

電動糸のこ盤で切断

組み立て中

組み立て中

生徒作品例

生徒作品例

生徒作品例

　台形状の横板は、直進性のいい電動帯鋸盤を使用して切断し、製作時間を短縮した。
　他の板は正しい長さに測って印をつけてノコギリで切断し、ベルトサンダーを使って長さ調製をした。
　木工ボンドを塗って組み立て作業をしたが、箱テッシュを入れるために細い板２枚で支える構造のため取り出し口２枚の板を安定して固定するのが難しかった。また。取り出し口の２枚の板を上下逆方向に接着する生徒も見られ、注意して固定する必要を感じられた。
＜良かった点・改善点（児童生徒の反応を含め）＞
　生徒が好きなものや名前のイニシャルなどから取り出し口の模様を作ることができ、いろいろな形のものが製作することができた。板を接着剤で固定するためにクリップや速乾性の接着剤などを使って完成度を上げる。生徒は時間内に完成し、作品展に展示できたことを喜んでいた。檜の板を使用したのでいい香りがした。
＜その他（材料、費用、購入先等）＞
　檜の柱　建築建材の廃材を利用したため無料